



2026年3月期 第1四半期決算説明会



2025年8月5日 スズキ株式会社

（ご参考）表紙画像：7月4日発表のストリートバイク、新型「GSX-8T」（右）、
新型「GSX-8TT」（左）

2026年3月期 第1四半期決算

- ・売上収益 1兆3,978億円、営業利益1,421億円となり、減収減益
- ・為替影響や原材料価格上昇に加え、インド・欧州で販売台数が減少した結果、5期ぶりの減益
- ・国内四輪事業、及び二輪事業、マリン事業は堅調
- ・インドでは、輸出台数の増加がインド国内の販売減を補った

2026年3月期 通期予想

- ・前回の通期予想を据え置き
経営環境は厳しく不透明な状態が続くが、研究開発、設備投資、人的資本投資を積極的に行い、中期経営計画の実現に向けて収益基盤の強化に努める
- ・インドでは、政策金利の引き下げや所得税の減税等の実施により、
当下期からの市場環境の改善が期待される
e ビターラとともに新SUVを新たに投入し、巻き返しを図っていく



2026年3月期 第1四半期決算のサマリーをご説明いたします。

当期は、売上収益1兆3,978億円、営業利益1,421億円となり、減収減益となりました。
為替円高影響や原材料価格の上昇に加えて、インドや欧州での販売台数が減少した結果、
5期ぶりの減益という厳しい決算となりました。

その中でも、国内四輪事業、二輪事業、およびマリン事業は堅調であり、
また、インドでは輸出台数の増加がインド国内の販売減を補う形となりました。

通期予想につきましては、前回発表を据え置きといたします。
経営環境は引き続き厳しく、不透明な状態が続きますが、
研究開発、設備投資、人的資本投資を積極的に行い、
中期経営計画の実現に向けて収益基盤の強化に努めて参ります。

インドでは、政策金利の引き下げや所得税の減税の実施等、当下期からの市場環境の改善が期待されます。
e ビターラとともに新たなSUVを投入し、巻き返しを図って参ります。

目次

サマリー 2

2026年3月期 第1四半期決算4 ～13

 総括 4

 四半期毎の業績 5

 営業利益増減要因 6

 事業別業績、営業利益増減要因 7

 四輪・二輪台数実績 8～13

通期業績予想 14～17

 総括 14

 営業利益増減要因 15

 四輪・二輪台数情報 16～17

補足資料 18～26

2026年3月期 第1四半期決算 | 総括

(億円)		当第1四半期 (’25/4-6)	前年同期 (’24/4-6)	増 減		補足
					増減率	
連結 業績	売上収益	13,978	14,576	▲599	▲4.1%	5期ぶり減収
	営業利益 (利益率)	1,421 (10.2%)	1,576 (10.8%)	▲154	▲9.8%	5期ぶり減益
	税引前利益 (利益率)	1,757 (12.6%)	1,895 (13.0%)	▲138	▲7.3%	3期ぶり減益
	四半期利益※ (利益率)	1,020 (7.3%)	1,142 (7.8%)	▲122	▲10.7%	3期ぶり減益
為替 レート	米ドル	145円	156円	▲11円	▲7.2%	
	ユーロ	164円	168円	▲4円	▲2.4%	
	インドルピー	1.70円	1.88円	▲0.18円	▲9.6%	
世界 販売	四輪車	754千台	784千台	▲30千台	▲3.8%	インド、欧州等で減少
	二輪車	548千台	522千台	+ 26千台	+ 4.9%	インド、中南米等で増加

※ 四半期利益は親会社の所有者に帰属する四半期利益



© Suzuki Motor Corporation, 2025. All rights reserved.

4 / 17

はじめに、今回の決算の実績をご説明いたします。

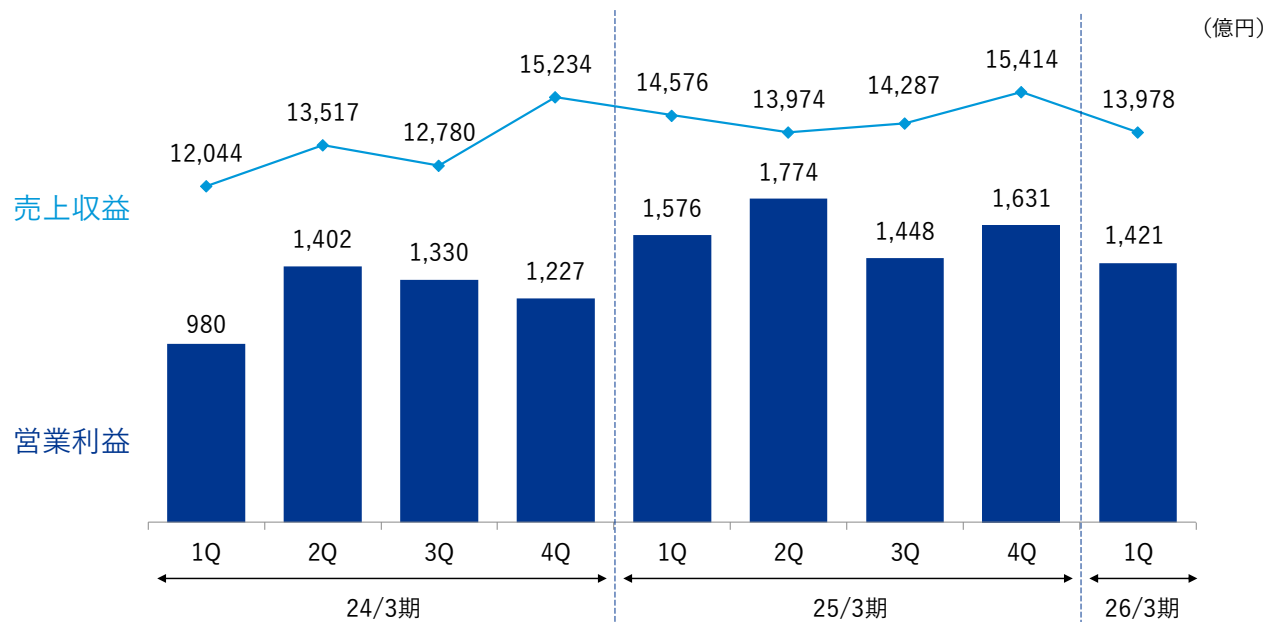
売上収益は、販売台数の減少や為替影響等により、1兆3,978億円と、前年同期に比べ599億円減少しました。

営業利益は、減収の影響や成長投資の増加により1,421億円と、前年同期に比べ154億円減少しました。

税引前利益は1,757億円と、前年同期に比べ138億円減少、四半期利益は1,020億円と、前年同期に比べ122億円減少しました。

四輪車の販売は、インドや欧州で減少したことにより世界販売合計では3万台減少しました。
二輪車の販売は、インド、中南米等で増加し世界販売合計では2万6千台増加しました。

2026年3月期 第1四半期決算 | 四半期毎の業績



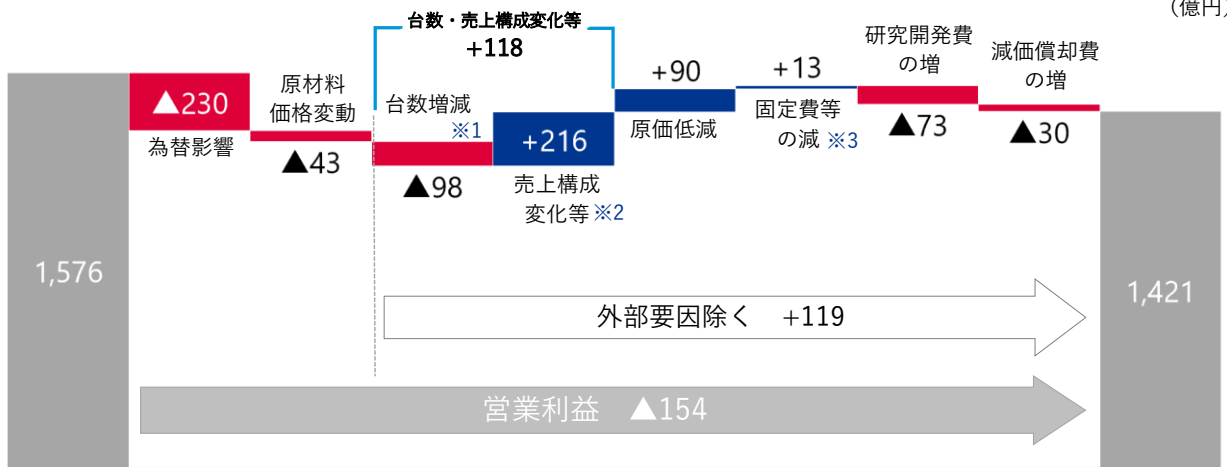
© Suzuki Motor Corporation, 2025. All rights reserved.

5 / 17

四半期毎の業績については、ご覧の通りです。

2026年3月期 第1四半期決算 | 営業利益増減要因

(億円)



前年同期
'24/4-6

※1 台数増減影響 主な内訳

- ・当社単独 ▲121億円
- ・マルチスズキ +27億円

※2 売上構成変化等 主な内訳

- ・当社単独 ▲57億円
- ・マルチスズキ ▲14億円
- ・未実現利益 +162億円

※3 固定費等の減 主な内訳

- ・品質関連費用 +79億円
- ・営業政策費 +44億円
- ・労務費 ▲89億円

当期
'25/4-6



© Suzuki Motor Corporation, 2025. All rights reserved.

6 / 17

前年同期と比較した営業利益の増減要因は、ご覧の通りです。

外部要因としては、

- ・ 為替影響で230億円の減益、
- ・ 原材料価格変動については、
主にインドでの原材料価格の上昇により43億円の減益
となりました。

外部要因を除く項目では、

減益要因として、

- ・ 台数増減により98億円の減益で、
これは主に当社単独の輸出減少の影響です。
- ・ 成長投資に関する費用として、
 - ・ 研究開発費の増により73億円、
 - ・ 減価償却費の増により30億円、

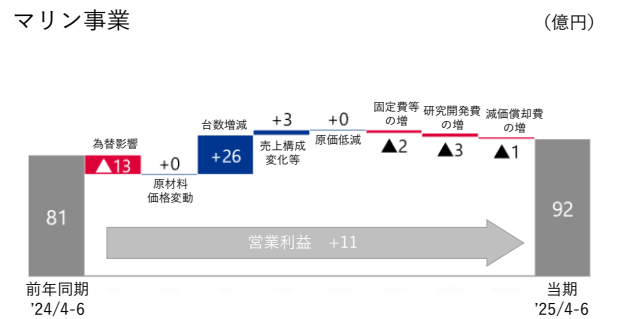
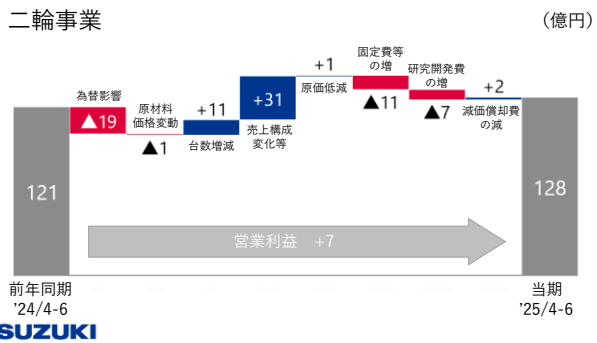
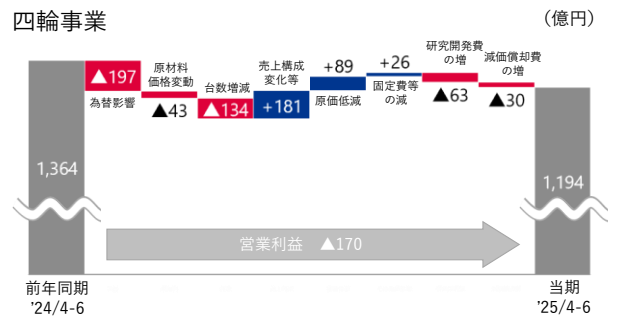
の減益となりました。

主な増益要因として、

- ・ 売上構成変化等で216億円
 - ・ 原価低減で90億円
- の増益となりました。

2026年3月期 第1四半期決算 | 事業別業績、営業利益増減要因

	(億円)				
	'25/4-6				
	売上収益		営業利益		
		前年比		前年比	利益率
四 輪	12,578	▲5%	1,194	▲12%	9.5%
二 輪	1,048	+0%	128	+5%	12.2%
マリン	319	+6%	92	+13%	28.8%
その他	33	+19%	8	▲18%	23.3%
連結 計	13,978	▲4%	1,421	▲10%	10.2%



© Suzuki Motor Corporation, 2025. All rights reserved. 7 / 17

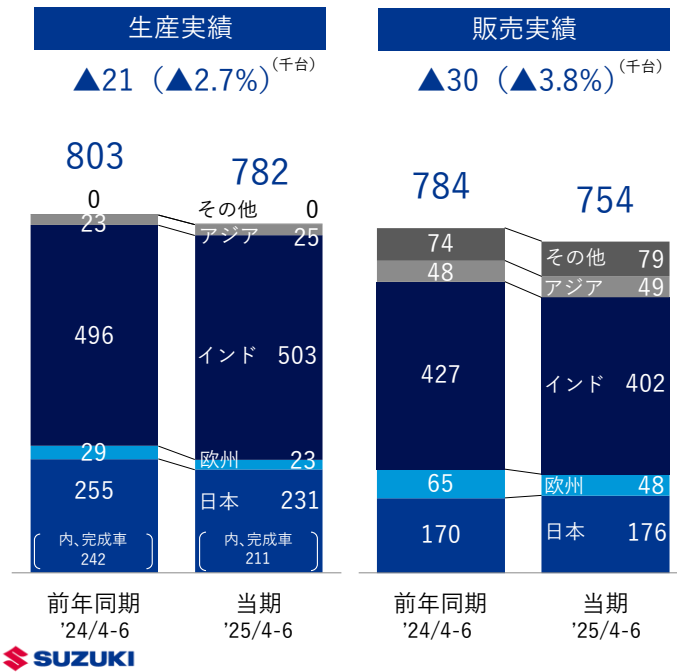
次に事業別の業績についてご説明いたします。

四輪事業につきましては
為替影響や台数減少、研究開発費の増加等により、減収減益となりました。

二輪事業につきましては
為替円高影響を受けながらも、台数増加や売上構成変化等の改善等により、
増収増益となりました。
主にインドでの販売拡大が増益に寄与しました。

マリン事業につきましては
北米において、関税影響があったものの販売が伸長し、増収増益となりました。

四輪台数実績 | グローバル



● 当期の世界販売

	台数	前年同期比	
世界販売	754	▲30	▲3.8%
日本	176	+6	+3.6%
欧州	48	▲17	▲26.5%
インド	402	▲25	▲5.8%
アジア（除インド）	49	+1	+2.1%
パキスタン	23	+4	+20.3%
インドネシア	13	▲3	▲18.4%
フィリピン	5	+0	+0.6%
その他	79	+5	+7.2%
中南米	28	▲1	▲4.2%
アフリカ	31	+7	+27.4%
中近東	15	+2	+11.3%
大洋州	5	▲2	▲23.1%

© Suzuki Motor Corporation, 2025. All rights reserved.

8 / 17

次に、生産・販売の状況についてご説明いたします。

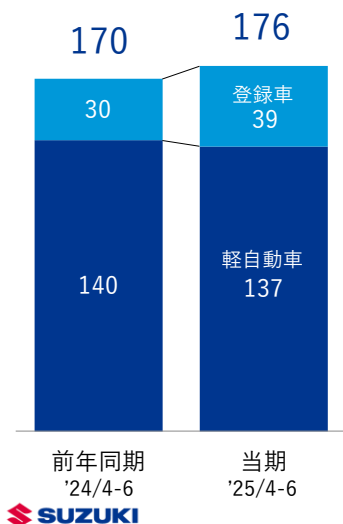
四輪車につきまして

日本、アフリカ、パキスタン等にて販売台数が増加したものの、インドや欧州での販売台数が減少したため、生産・販売ともに前期を下回りました。

四輪販売台数 | 日本

販売実績

+6 (+3.6%) (千台)

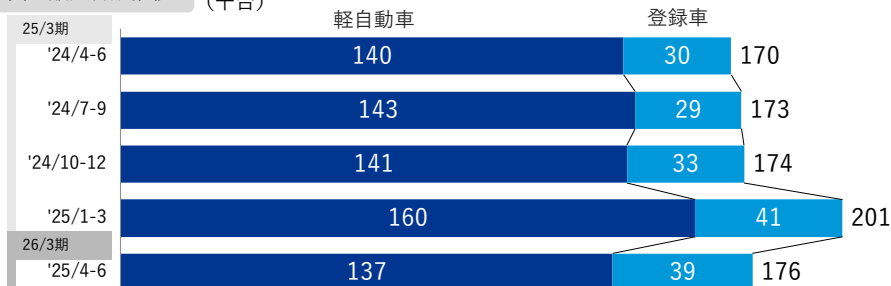


● 当期の販売状況

- ・ 軽自動車のシェアは第1位 (35.1%)
- ・ 登録車販売台数は39千台 (前年同期比+30.4%)
- ・ ソリオ、フロンクスを中心に、販売を拡大



国内販売台数推移 (千台)



● 新型「e ビターラ」ティザーサイト 7月10日公開

- ・ スズキ初のバッテリーEV。2025年度中に日本へ導入予定
- ・ EVとしての洗練さと先進性、SUVの力強さを併せ持つデザイン
- ・ パワフルな走りを提供する「ALLGRIP-e」、BEV専用に新しく開発したプラットフォーム「HEARTECT-e」等を採用



新型「e ビターラ」専用サイト: <https://www.suzuki.co.jp/car/evitara/>

© Suzuki Motor Corporation, 2025. All rights reserved.

9 / 17

次に日本の四輪販売実績についてご説明いたします。

当期の販売において、軽自動車のシェアは35.1%で、第1位を獲得いたしました。また、登録車販売においても3万9千台と、前年同期に比べて30.4%の増加となりました。

ソリオに加え、インド製モデルであるフロンクスやジムニー ノマド投入が台数増加に寄与しています。

7月10日には、スズキ初のバッテリーEVである新型「e ビターラ」のティザーサイトを公開いたしました。

EVとしての洗練さと先進性、そしてSUVの力強さを併せ持つデザインとなっています。

また、悪路での走破性のみならずパワフルな走りを提供する電動4WDである「ALLGRIP-e」や、

バッテリーEV専用に新しく開発したプラットフォームである「HEARTECT-e」等を採用したSUVです。

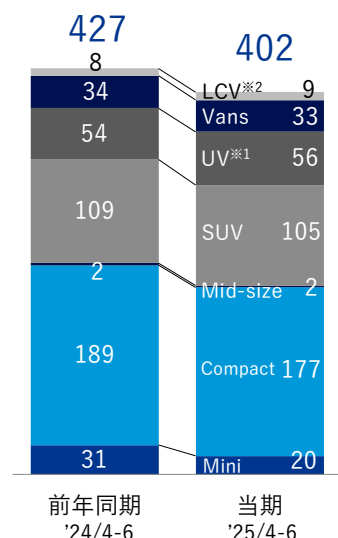
2025年度中に日本へ導入予定となっております。

ティザーサイトにて、情報を随時更新して参りますので、発売まで今しばらくお待ちください。

四輪販売台数 | インド

国内卸販売実績

▲25 (▲5.8%) (千台)



SUZUKI

注: 商用車(LCV)を含む卸販売実績。OEMは除く
※1 UV=Utility Vehicles (Ertiga等) ※2 LCV=Light Commercial Vehicles

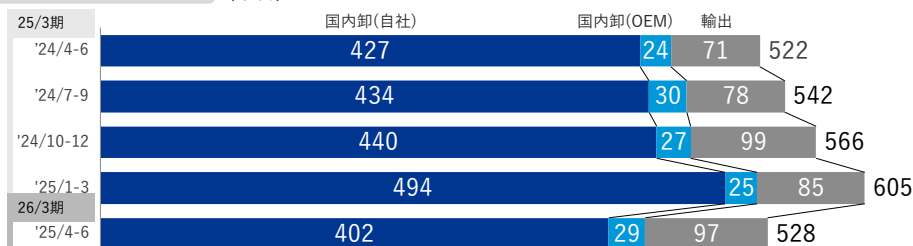
● 当期の出荷状況

- ・国内卸と輸出を合計した総出荷台数は528千台（前年同期比+1.1%）と増加
- ・国内卸販売は、市場環境が厳しく、402千台（前年同期比▲5.8%）と減少
- ・一方で、インド国外市場は販売が伸長しており、当期の輸出台数は97千台（前年同期比+37.4%）と大きく伸長
- ・中近東、アフリカ、中南米、日本を中心に、グローバルへの輸出の拡大を図る

● 今後の見通し

- ・政策金利の引き下げや所得税減税等の政策により、当下期からの市場環境の改善に期待
- ・当社は2025年度中にe ビターラ含むSUVを2モデル投入予定
- ・お祭り商戦（ディワリ：10月下旬）に向けての販売促進活動にも注力

出荷台数の内訳 (千台)



© Suzuki Motor Corporation, 2025. All rights reserved.

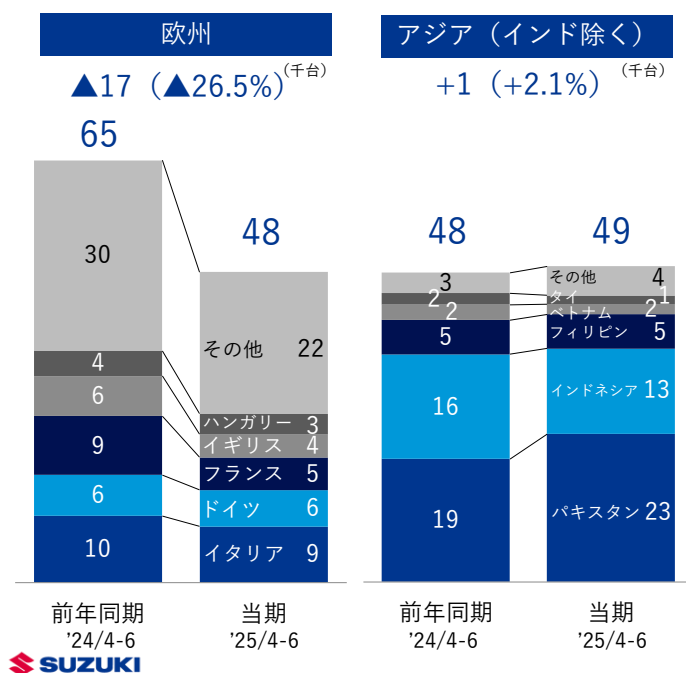
10 / 17

つづいてインドの四輪販売の状況です。

当期につきましては、国内卸と輸出を合計した総出荷台数は、52万8千台と、前年同期より1.1%増加しました。国内卸販売は、市場環境が厳しく、40万2千台と、前年同期より5.8%減少しました。一方で、インド国外市場は販売が伸長しており、当期の輸出台数は9万7千台と、前年同期より37.4%増加しました。引き続き、中近東やアフリカ、中南米、日本を中心に、グローバルへの輸出の拡大を図って参ります。

今後につきましては、政策金利の引き下げや所得税減税等の政策により、当下期からの市場環境の改善に期待できます。そのなか、当社は2025年度中にe ビターラ含むSUVを2モデル投入する予定です。さらに、10月下旬からはじまるディワリというお祭り期間の商戦に向けて、販売促進活動にも注力して参ります。

四輪販売台数 | 欧州 / アジア（インド除く）



● 当期の販売状況

◆ 欧州

- ・スウィフトの販売が引き続き堅調
- ・イグニス、ジムニーの販売終了により
合計販売台数は減少

◆ パキスタン

- ・当期の販売台数は23千台（前年同期比+20.3%）
- ・4～5月に物流の混乱が生じ、販売出遅れ
→その後 正常化し、6月に挽回
- ・7月以降の増税が発表され、アルトの駆け込み需要が発生

続いて欧州とアジアの販売状況です。

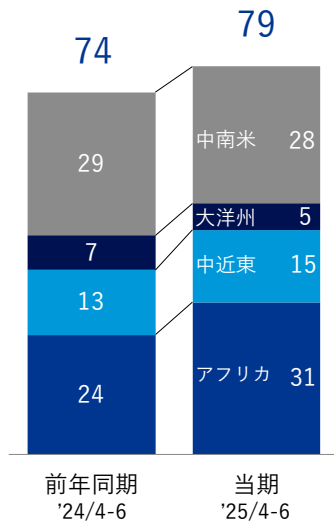
欧州では、
スウィフトの販売が引き続き堅調ですが、
イグニスやジムニーの販売終了により全体の販売台数は減少しました。

パキスタンでは、
当期の販売実績は2万3千台と、前年同期に比べて20.3%の増加となりました。
4月から5月にかけて物流の混乱が生じ、販売が出遅れましたが、
その後は正常化し、6月に挽回いたしました。
また、7月以降の増税が発表されたことに伴い、
アルトの駆け込み需要が発生したことも、販売台数の増加に影響しました。

四輪販売台数 | その他地域

販売実績

+5 (+7.2%) (千台)



SUZUKI

トピックス

- ・ アフリカ、中近東ともに好調を維持
- ・ 南アフリカの6月単月のシェアは11.0%で2位を維持（6ヵ月連続）
スィフト、フロンクス、エルティガ等のインド製モデルが販売を牽引
- ・ サウジアラビアでは新型ディザイアが販売増に貢献

当期の販売実績

	台数	前年同期比	
アフリカ	31	+7	+27.4%
南アフリカ	17	+3	+25.8%
中近東	15	+2	+11.3%
サウジアラビア	9	+2	+32.1%
大洋州	5	▲2	▲23.1%
中南米	28	▲1	▲4.2%
メキシコ	9	▲1	▲12.0%
チリ	5	+1	+10.5%



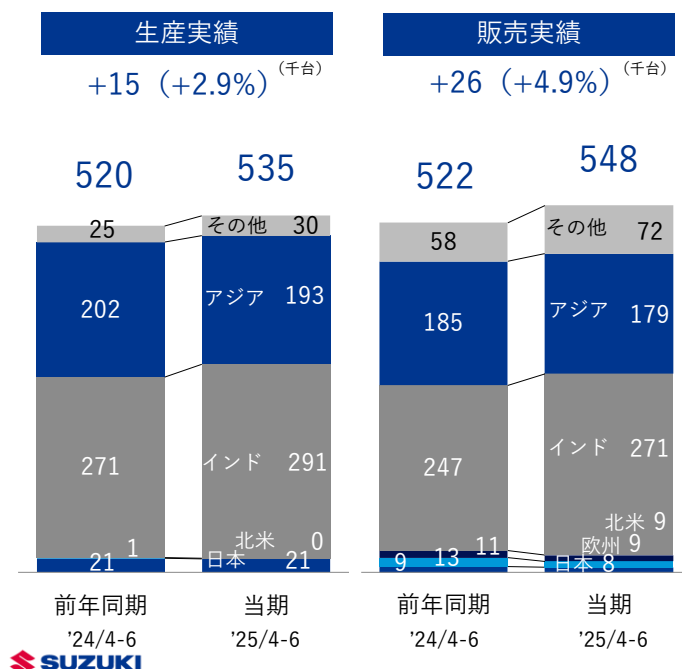
© Suzuki Motor Corporation, 2025. All rights reserved.

12 / 17

その他地域の販売状況です。
アフリカ、中近東では好調を維持しています。

南アフリカでは、スィフト、フロンクス、エルティガ等のインド製モデルが販売を牽引し、
6月単月シェアは11.0%と、6ヵ月連続で2位を維持しています。
また、サウジアラビアでは新型ディザイアが、販売台数の増加に貢献しています。

二輪台数実績 | グローバル



● 鈴鹿 8 時間耐久ロードレースに参戦

- ・ 8月1日～3日、鈴鹿8時間耐久ロードレースに「チームスズキCNチャレンジ」として、ライダー以外は社内公募のスズキ社員で構成されたチーム体制で参戦
- ・ アクシデントをチームスズキ全員で乗り越え、33位で完走
- ・ 100%サステナブル燃料をはじめとする更なる環境負荷低減を目指したサステナブルアイテムを採用
- ・ 環境性能技術を磨き上げ、チームスズキで社会とお客様の期待に応えることを目指していく



© Suzuki Motor Corporation, 2025. All rights reserved.

13 / 17

次に二輪車の販売状況についてご説明いたします。

欧州や北米での減速がみられましたが、インドではアクセス125をはじめとするスクーターの伸びが堅調で、生産、販売ともに前年同期を上回りました。二輪全体につきましても、生産、販売ともに前年同期を上回りました。

トピックスとして、鈴鹿 8 時間耐久ロードレースに「チームスズキCNチャレンジ」として、ライダー以外は社内公募のスズキ社員で構成されたチーム体制で参戦しました。転倒のアクシデントがあったものの、チームスズキ全員で乗り越え、33位で完走いたしました。

今回の参戦は、環境性能技術の開発加速を目的として、昨年に引き続き、サステナブル燃料を使用いたしました。今後も、この活動を通じて環境性能技術を磨き上げ、チームスズキで社会とお客様の期待に応えることを目指してまいります。

(億円)		通期予想 ('25/4-'26/3)	前期実績 ('24/4-'25/3)	増 減		補足
					増減率	
連結 業績	売上収益	61,000	58,252	+ 2,748	+ 4.7%	5期連続増収
	営業利益 (利益率)	5,000 (8.2%)	6,429 (11.0%)	▲1,429	▲22.2%	4期ぶり減益
	税引前利益 (利益率)	5,800 (9.5%)	7,302 (12.5%)	▲1,502	▲20.6%	6期ぶり減益
	当期利益※ (利益率)	3,200 (5.2%)	4,161 (7.1%)	▲961	▲23.1%	6期ぶり減益
為替 レート	米ドル	140円	153円	▲13円	▲8.3%	
	ユーロ	160円	164円	▲4円	▲2.4%	
	インドルピー	1.68円	1.82円	▲0.14円	▲7.7%	
世界 販売	四輪車	3,324千台	3,240千台	+ 83千台	+ 2.6%	
	二輪車	2,078千台	2,064千台	+ 14千台	+ 0.7%	

※ 当期利益は親会社の所有者に帰属する当期利益



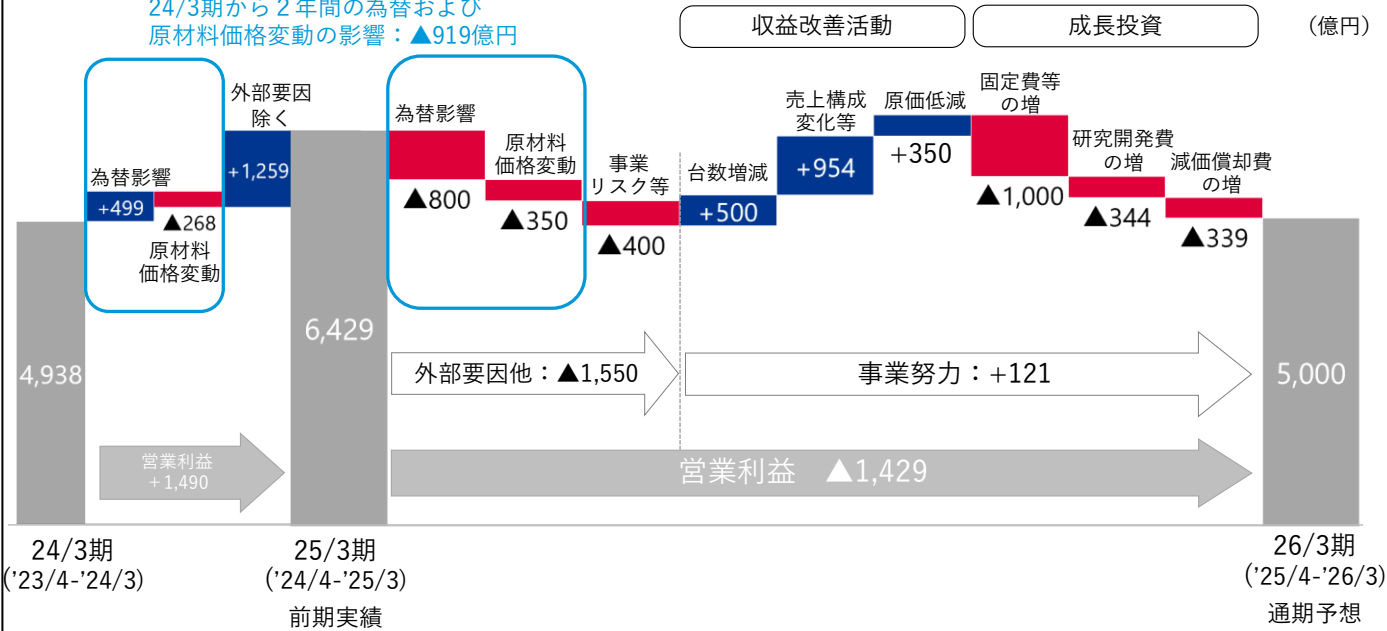
通期業績予想についてご説明いたします。

関税や為替影響等、不透明な経営環境がいまだ継続しています。
そのため、収益、利益、為替レート、台数とも前回発表を据え置きといたしました。
売上収益は6兆1,000億円、営業利益は5,000億円とします。

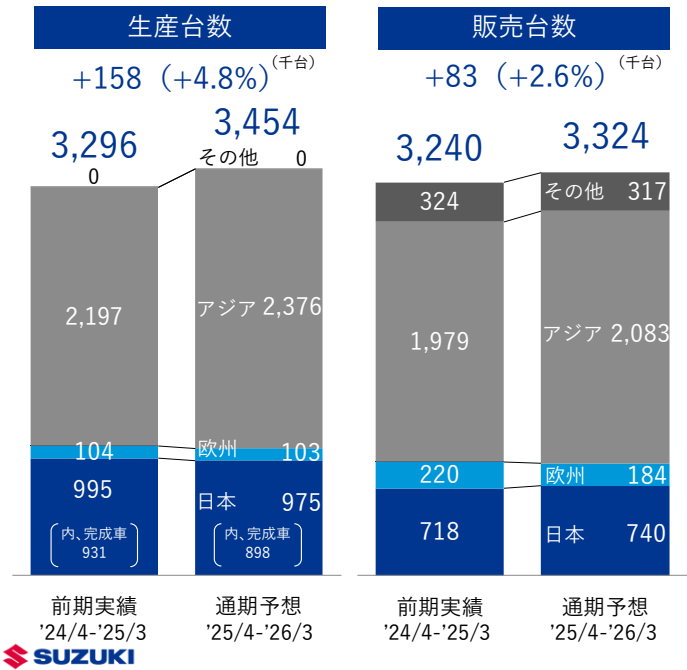
為替レートは、
米ドル140円、ユーロ160円、インドルピー1.68円を見込んでいます。

四輪車の販売台数については、前期から8万3千台の増加、
二輪車の販売台数については、前期から1万4千台増加する見込みです。

24/3期から2年間の為替および
原材料価格変動の影響：▲919億円



前期に対する営業利益の増減要因の内訳は、前回予想から変更なく、ご覧の通りです。



●生産台数

(千台)	前期実績	通期予想	増減	増減率
世界生産	3,296	3,454	+158	+4.8%
日本	995	975	▲20	▲2.0%
欧州	104	103	▲1	▲1.0%
アジア	2,197	2,376	+179	+8.1%
その他	0	0	+0	+101.9%

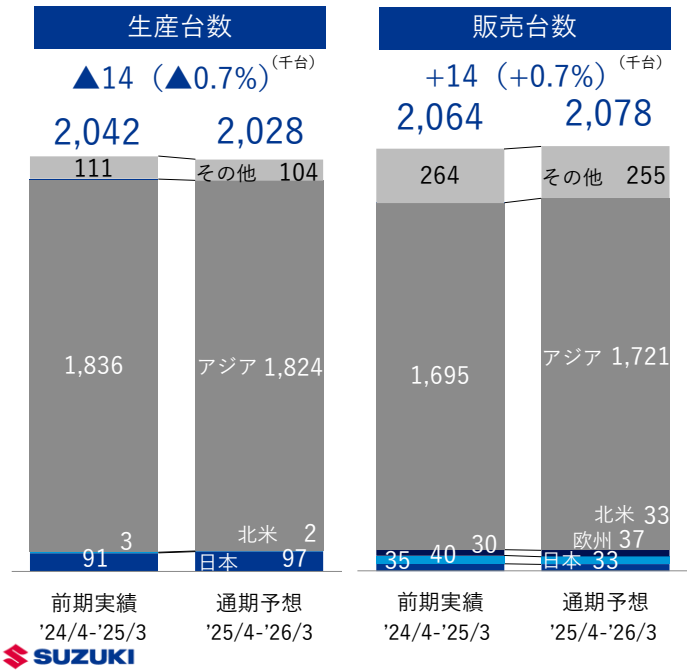
●販売台数

(千台)	前期実績	通期予想	増減	増減率
世界販売	3,240	3,324	+83	+2.6%
日本	718	740	+22	+3.1%
欧州	220	184	▲36	▲16.4%
アジア	1,979	2,083	+104	+5.3%
その他	324	317	▲7	▲2.2%

四輪車の通期業績予想は、
生産台数、販売台数ともに前回予想を据え置きとします。

生産台数につきましては、
15万8千台増加する見込みです。

販売台数につきましては、
世界全体で8万3千台増加する見込みです。



●生産台数

(千台)	前期実績	通期予想	増減	増減率
世界生産	2,042	2,028	▲14	▲0.7%
日本	91	97	+7	+7.4%
北米	3	2	▲2	▲48.0%
アジア	1,836	1,824	▲12	▲0.7%
その他	111	104	▲7	▲6.2%

●販売台数

(千台)	前期実績	通期予想	増減	増減率
世界販売	2,064	2,078	+14	+0.7%
日本	35	33	▲3	▲8.4%
欧州	40	37	▲3	▲7.1%
北米	30	33	+3	+11.1%
アジア	1,695	1,721	+26	+1.5%
その他	264	255	▲9	▲3.5%

二輪車の通期業績予想につきましても、
生産台数、販売台数ともに前回予想を据え置きとします。

生産台数につきましては、1万4千台の減少、
販売台数につきましては、1万4千台増加する見込みです。

以上で、2026年3月期 第1四半期決算の説明を終わります。
ご清聴ありがとうございました。

補足資料



2026年3月期 第1四半期決算 | 売上収益の状況

(億円)	四輪			二輪			マリン			その他			合 計			増減内訳	
	当期	前期	増減	当期	前期	増減	当期	前期	増減	当期	前期	増減	当期	前期	増減	為替影響	台数増減
国内計	3,759	3,470	+289	41	47	▲6	9	8	+0	33	28	+5	3,842	3,553	+289		▲65
自 社	3,500	3,189	+311	41	47	▲6	9	8	+0	33	28	+5	3,582	3,272	+310		
O E M	260	281	▲21										260	281	▲21		
海外計	8,819	9,730	▲911	1,007	1,000	+6	310	293	+17				10,136	11,023	▲888	▲878	▲507
欧 州	1,174	1,661	▲488	126	152	▲26	63	55	+8				1,362	1,868	▲506	▲32	▲447
北 米	1	1	▲0	111	115	▲4	161	157	+3				273	273	▲1	▲22	+12
アジア	6,060	6,432	▲372	545	540	+5	29	36	▲7				6,634	7,009	▲374	▲664	▲260
インド	5,242	5,636	▲394	366	355	+11	3	3	+0				5,611	5,993	▲383	▲589	▲311
々以外	817	796	+22	180	186	▲6	26	33	▲7				1,023	1,015	+8	▲76	+47
その他	1,585	1,635	▲50	224	193	+31	57	45	+12				1,867	1,873	▲7	▲160	+189
総合計	12,578	13,200	▲621	1,048	1,048	+0	319	302	+17	33	28	+5	13,978	14,576	▲599	▲878	▲572
内、為替換算影響			▲768				▲90				▲20				▲878		

注、当期…2025年4月～6月期、前期…2024年4月～6月期、北米…米国・カナダ、北米四輪車…部品用品等

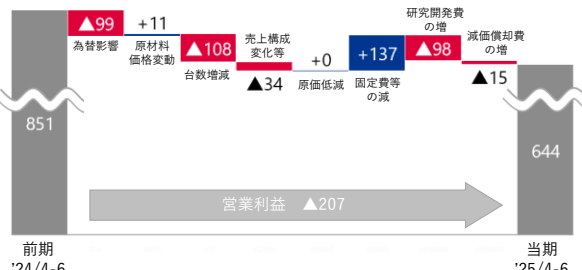


2026年3月期 第1四半期決算 | 所在地別業績、営業利益増減要因

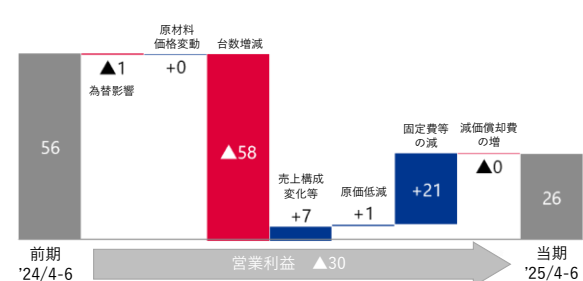
所在地セグメント別業績 (億円)

	'25/4-6				
	売上収益		営業利益		
		前年比		前年比	利益率
日 本	7,163	▲1%	644	▲24%	9.0%
欧 州	1,567	▲31%	26	▲54%	1.6%
アジア	7,833	▲0%	623	▲16%	8.0%
その他	1,092	▲6%	48	+62%	4.4%
連結計	13,978	▲4%	1,421	▲10%	10.2%

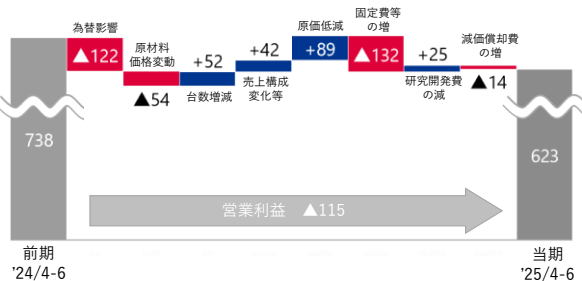
日本 (億円)



欧州 (億円)



アジア (億円)



2026年3月期 第1四半期決算 | マルチ・スズキ・インディア社の業績

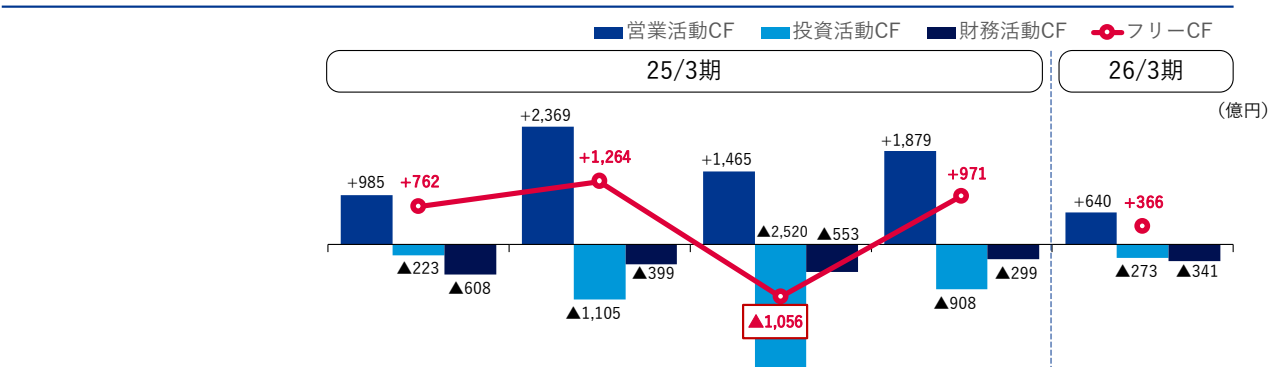
		ルピー建（億ルピー）※1			円換算額（億円）		
		当第1四半期	前年同期	増減	当第1四半期	前年同期	増減
連結業績	売上収益※2	3,662	3,388	+ 275	6,226	6,369	▲143
	営業利益※3 （利益率）	307 (8.4%)	377 (11.1%)	▲71	521 (8.4%)	710 (11.1%)	▲188
	税引前利益 （利益率）	494 (13.5%)	484 (14.3%)	+ 11	840 (13.5%)	909 (14.3%)	▲69
	税引後利益 （利益率）	379 (10.4%)	376 (11.1%)	+ 3	645 (10.4%)	707 (11.1%)	▲62
	為替レート	1.70円	1.88円	▲0.18円			
卸販売	国内販売※4	431千台	451千台	▲20千台			
	輸出※4	97千台	71千台	+ 26千台			
	合計	528千台	522千台	+ 6千台			

※1 ルピー建は、7月31日付でマルチ・スズキ・インディア社が発表した連結業績値
 ※2 売上収益 = Sales of products
 ※3 営業利益は次式により算出 営業利益 = Sales of products + Other operating revenues - Total Expenses + Finance costs
 ※4 国内販売および輸出はOEMを含む

注. マルチ・スズキ・インディア社はInd AS（インド版IFRS）に基づき会計処理をしており、本数値はあくまでも参考値



2026年3月期 第1四半期決算 | 連結キャッシュフロー四半期推移



	25/3期				26/3期
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q
フリーCF	+762	+1,264	▲1,056	+971	+366
財務CF	▲608	▲399	▲553	▲299	▲341
(内、配当金支払額※1)	(▲324)	(▲301)	(▲385)	(+2)	(▲406)
為替影響	+198	▲313	+190	▲130	+40
キャッシュ増減	+352	+552	▲1,419	+542	+66
キャッシュ残高	8,752	9,304	7,885	8,427	8,493
ネットキャッシュ	1,027	1,732	352	1,174	1,136
(月商比※2)	(0.2ヵ月)	(0.4ヵ月)	(0.1ヵ月)	(0.2ヵ月)	(0.2ヵ月)

※1 非支配株主への配当金の支払額を含む

※2 月商比は、各期の通期売上収益の平均月商をもとに算出

© Suzuki Motor Corporation, 2025. All rights reserved. 22

2026年3月期 第1四半期決算 | 設備投資等

	当期 ('25/4-6)	前期 ('24/4-6)	増 減
設備投資	827億円	831億円	▲4億円
当社単独	243億円	250億円	▲7億円
子会社	584億円	581億円	+ 4億円
(内、インド)	(472億円)	(450億円)	(+22億円)
減価償却費	504億円	475億円	+ 30億円
研究開発費	631億円	557億円	+ 73億円

※ インド：マルチ・スズキ社（グジャラートを含む）、SMIPL社、TDSG社、SRDI社、Sデジタル社、NBV社 6社の合計
※ リース取引および無形資産に係る設備投資、減価償却費は上記の実績値に含まない
※ 研究開発費は、報告期間中に発生した研究開発活動に係る支出額を記載

	当第1四半期末 ('25/6末)	前年同期末		前期末	
		('24/6末)	増 減	('25/3末)	増 減
有利子負債残高	7,357億円	7,725億円	▲368億円	7,253億円	+104億円
連結子会社数	122社	121社	+1社	122社	±0社
持分法適用関連会社数	36社	34社	+2社	35社	+1社
従業員数	75,983人	73,414人	+2,569人	74,077人	+1,906人

※ リース負債は上記の実績に含まない



2026年3月期 第1四半期決算 | 為替レートと為替影響額

	当期 ('25/4-6)	前年同期 ('24/4-6)	前年同期比 増減		営業利益 為替影響	
					感応度 ^{※2}	影響額
インドルピー	1.70円	1.88円	▲0.18円	▲9.6%	+12億円	▲114億円
メキシコペソ	7.41円	9.06円	▲1.65円	▲18.2%	+2億円	▲29億円
米ドル	145円	156円	▲11円	▲7.2%	+4億円	▲26億円
ユーロ	164円	168円	▲4円	▲2.4%	+5億円	▲13億円
パキスタンルピー	0.52円	0.56円	▲0.04円	▲7.1%	+2億円	▲13億円
南アフリカランド	7.91円	8.39円	▲0.48円	▲5.7%	+2億円	▲12億円
オーストラリアドル	93円	103円	▲10円	▲9.9%	+1億円	▲5億円
ポンド	193円	197円	▲4円	▲1.9%	+1億円	▲2億円
その他 ^{※1}	—	—	—	—	+2億円	▲15億円
営業利益為替影響額 合計					+30億円	▲230億円

※1 その他…影響額▲15億円のうち、コロンビアペソ▲5億円、ベトナムドン▲3億円ほか
※2 感応度…各通貨のレートが前年同期のレートから1% 円安方向に動いた際の営業利益影響額



	通期予想	前期実績	前期実績比 増減		営業利益 為替影響	
					感応度※1	影響額
インドルピー	1.68円	1.82円	▲0.14円	▲7.7%	+61億円	▲468億円
米ドル	140円	153円	▲13円	▲8.3%	+17億円	▲140億円
メキシコペソ	7.10円	8.02円	▲0.92円	▲11.5%	+9億円	▲98億円
南アフリカランド	7.53円	8.37円	▲0.84円	▲10.0%	+8億円	▲81億円
ユーロ	160円	164円	▲4円	▲2.4%	+29億円	▲70億円
オーストラリアドル	89円	100円	▲11円	▲10.6%	+3億円	▲33億円
パキスタンルピー	0.52円	0.55円	▲0.03円	▲5.5%	+6億円	▲32億円
ポンド	188円	195円	▲7円	▲3.5%	+7億円	▲24億円
ポーランドズロチ	38円	38円	▲1円	▲1.7%	+3億円	▲4億円
営業利益為替影響額 合計					+147億円	▲800億円

※1 感応度…各通貨のレートが前期実績から1% 円安方向に動いた際の営業利益影響額

(億円)	通期予想	前期実績	増減
設備投資	3,800	3,618	+ 182
減価償却費	2,300	1,961	+ 339
研究開発費	3,000	2,656	+ 344

※ リース取引および無形資産に係る設備投資、減価償却費は上記の実績・予想に含まない
※ 研究開発費は、報告期間中に発生した研究開発活動に係る支出額を記載



2025年8月5日 スズキ株式会社

(ご参考) 裏表紙画像：鈴鹿8時間耐久ロードレースの壮行会の様子



将来予想に関する注意事項

- このプレゼンテーション資料に記載した将来予想は、現時点で入手可能な情報及び仮定に基づき当社が判断したもので、リスクや不確実性を含んでおり、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。
- 実際には、様々な要因の変化により大きく異なることがありますことをご承知おきください。
- 実際の業績に影響を及ぼす可能性がある要因には、主要市場における経済情勢及び需要の動向、為替相場の変動などが含まれます。